

令和7年度 前・後期学校評価

伊予市立佐礼谷小学校 令和8年1月

【アンケート結果】 4：大変よい 3：よい 2：やや改善を要する 1：改善を要する
 【評価基準】 A：肯定率90% B：肯定率80%以上 C：肯定率60%以上 D：肯定率60%未満
 【目標値評価】 A：全体肯定率90%以上 B：全体肯定率80%以上 C：全体肯定率60%以上 D：全体肯定率60%未満

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	前期・後期	目標値評価	前回調査比 向上は青 低下は赤	学校による考察・改善	評価資料	評価基準	肯定率	アンケート結果(%)				
										4	3	2	1	
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	複式及び個に応じた指導法の工夫と改善を行い、基礎・基本の確実な定着に努めているか 目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A		高い肯定率となった。日ごろから教職員間で、授業における課題や工夫について情報交換を行い、改善に努めている。基礎・基本の定着については、EILSの検定機能やドリル機能等、ICTを活用しながら、個に応じた学習の定着を図っている。今後も確実な定着につながるよう引き続き研修を行っていく。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	33	67	0	0	
			後期	A		一人一人に合った指導を目指して授業改善を各教員が行っている。また、EILSの検定やドリルを繰り返し行い、基礎・基本の確実な定着ができるように努めた。少人数だからこそきめ細やかな指導ができることが本校のよさである。児童の実態に応じた指導ができるように、引き続き研修を行いたい。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	43	57	0	0	
		体験的・問題解決的な学習を充実させ、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A		地域の方や外部講師を招いて、様々な体験活動を行うことができた。体験活動を通して、課題解決に向けて意欲的に活動する児童の姿が見られた。自ら考え課題を設定するという点においては、見直しの余地がある。事前指導や事後指導を充実させ、より実りある体験活動にしていきたい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	50	50	0	0	
			後期	A		目標値・肯定率の変化はないが、教職員の評価は若干下がっている。体験的・問題解決的な学習の機会が多いが、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度の育成については、引き続き意識して取り組みたい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	50	50	0	0	
		指導過程、指導法の工夫を図り、豊かに表現する力を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A		少人数であるため、児童の実態に合わせて個別に指導に当たる反面、児童同士で話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動を展開することが難しい。ICTを活用して、他の学校と学習内容を交流したり発表できる場をより多く設定するなど指導方法を工夫し、意欲的に学ぶ児童を育てていきたい。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	A	100	75.0	25.0	0.0	0	
			後期	A		前期に比べ、児童の肯定率が下がった。少人数の授業形態であるため、学年ごとの学習では、自分の意見を発表する機会が少なく、自分の考えをしっかりと表現できていると感じることが難しかったのではないかと考える。学級や、学校全体での学習においては、自分の考えを積極的に表現できる児童が多い。できていることを褒めて自信を持たせていきたい。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	B	88	75	12.5	12.5	0	
	家庭学習の習慣が身に付いているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	家庭学習の習慣が身に付いているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	C		家庭学習の時間が低学年は30分・中学年は40分・高学年は50分程度になるように宿題を出している。しかし、学年に応じた家庭学習の時間が十分に達成できていない児童もいる。保護者や児童と相談しながら、宿題の量や内容を個に応じて調整していきたい。また、自主学習など計画的に家庭学習ができるような課題の出し方を工夫し、自ら学ぶ習慣を身に付けさせたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	B	88	87.5	0.0	12.5	0	
				後期	B		各御家庭や学童クラブの協力のお陰で、毎日宿題を忘れずに出せる児童が増えている。また、各学級で児童の実態に合わせて宿題の量や内容を精査することで、「自分でできた!」という達成感を持つ児童も増えてきた。今後も、家庭学習が負担にならないように、保護者や児童とも引き続き相談し、児童が前向きに家庭学習に取り組めるようにしたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	A	100	75	25	0	0
		自他の生命を尊ぶ、優しい心を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	自他の生命を尊ぶ、優しい心を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	A		給食や掃除、授業、縦割り班活動など異学年での活動が多く、児童がお互いに助け合ったり協力したりすることができている。その優しさを言葉遣いやその場に合った言動に生かせるように、全教育活動を通して育てていきたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	87.5	12.5	0	0
					後期	A		学校行事等を通して、友達のことを思いやったり、気遣ったりする様子がたくさん見られている。しかし、勝負事や自分の思いと反する友達の行動があると、相手を責める言動を取ってしまう児童もいる。自他を認め、楽しく学校生活が送れるよう、引き続き、様々な活動を通して、互いを思いやることのできる児童を育てていきたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	75	25	0
			後期	人とふれあい、思いやりの心・感謝の心もち、自ら実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員、地域住民80%以上が肯定(3・4)	A		地域や保護者の方々の温かさの中で育ち、児童も思いやりの心をもって学校生活を送ることができている。しかし、相手を傷付けるつもりがなくても、何げなく言ってしまった心無い一言からトラブルになってしまうこともある。道徳科等の授業を通して相手を思いやる言動について考えさせ、実践しようという態度につなげたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	B	88	50.0	37.5	12.5	0
					A		少人数だからこそ、お互いのことを知り、相手のことを考えて行動することができている。しかし、よく知っている仲だからこそ、言葉遣いがきつくなってしまうこともある。この子だから大丈夫だろうという考えから、いじめに発展してしまうこともあることを踏まえ、日頃の言葉遣いや行動を振り返り、考えさせる時間を作っていきたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	A	100	62.5	37.5	0	0
学校は、各学年の発達段階を考えながら、人権・同和教育を適切に行っているか。 目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	学校は、各学年の発達段階を考えながら、人権・同和教育を適切に行っているか。 目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	A		全体計画を基に、学年に応じた人権・同和教育を行っている。学校の教育活動全体を通じて推進に努めるとともに、校外での研修をすることで教職員の人権感覚を磨き、指導力を高めていく。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	B	83	83	0	17	0		
			後期	A		人権・同和教育参観日に授業を公開したように、全体計画を基に各学年の発達段階に応じて教育活動全体で指導を行っている。来年度に向けて全体計画を見直し、児童の実態に合った人権・同和教育を行いたい。また、保護者や地域への発信もしていきたい。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	50	50	0	0	
	後期	読書活動を通して、豊かな感性や創造力を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	C		週に2回朝読書の時間を設定している。しかし、児童が読む本は絵がたくさんある漫画のようなシリーズが多い。そのため、国語科の時間や児童集会などでも本を読む機会を設けている。このように、児童が本を読みたくなるような時間や本の選定を行い、読書活動の推進を行ってきたい。	児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	C	75	62.5	12.5	25.0	0.0		
			A		各学期に1回、1時間たっぷり本と触れ合う読み聞かせの時間を設定したり、児童がおすすめの本を紹介する機会を設けてホームページで発信したりしていることが今回の評価につながっている。今後も、児童が本を読みたくなる環境を作り、読書に親しむ子どもを育成していきたい。	児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	A	100	75	25	0	0		
学校運営協議会委員の所見	・小規模校だからできることかもしれませんが、児童の性格に合わせた、きめ細かな指導が行き届いている。 ・学童クラブでも宿題をするように声を掛けるが無理にはさせていない。子供の意欲に任せるところもある。	学校の対応	・「確かな学力の定着と向上」については、少人数(学年1~2名)の複式授業力の向上を図り、個に応じた、少人数の強みを生かした指導で基礎・基本のさらなる定着を目指す。 ・小規模校の良さを生かすとともに、他校との交流などを行い、多様性に触れる活動を行っていく。											

生徒指導	生徒指導の徹底	前期	A	挨拶をはじめ、基本的な生活習慣の形成が図られているが、児童によって差が見られる。また、相手の立場や気持ちを踏まえた適切な言葉遣いをすることや、時間に見通しを持った行動を取るなど、改善すべき課題もある。	児童②あい	B	88	62.5	25	12.5	0
		後期	A	目標値に変化はないが、児童の評価は挨拶が微減、清掃が微増となっている。保護者、教職員、地域住民については、肯定率は高いものの、全体的に下がっており、特に挨拶が課題となっている。いつでも、誰にでも、何度でも気持ちの良い挨拶ができる児童の育成に注力したい。	児童②あい	B	88	50	37.5	12.5	0
		前期	A	児童同士のトラブルはあるものの、子どもたちが納得する対応を取ることや保護者との連絡を密にすること、教職員全員で情報を共有することなどを通して、未然防止・早期発見・早期対応につなげるよう努めている。PTA理事会でいじめの認知件数について情報共有を行うなどして、検証を図る機会を設定していきたい。	児童						
		後期	A	目標値・肯定率の変化はないが、保護者・教職員共に評価は若干下がっている。今後も、いじめの早期発見・早期対応、不登校の未然防止に向け、教職員間の情報共有だけでなく、家庭との密な情報交換、関係機関との連携を図るなど、組織的な対応を取っていきたい。	児童						
学校運営協議会委員委員の所見			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、今後も児童に課題意識を持たせ、学校の生活目標として適宜設定して年間を通じて定着を図る。 ・家庭や学童クラブとの連携を密にし、いじめや不登校等の問題の未然防止に努めるとともに、教職員が一丸となって早期解決できる体制を維持する。 							
保健管理	健康教育の推進	前期	A	評価はAとなっているが、家庭での歯みがき習慣が十分に身に付いていないことや、メディアの利用時間が長いことが課題として挙げられる。今後も毎月の生活習慣調べを行い、生活習慣を親子で振り返る場を設け、改善に向けての啓発を行いたい。	児童④寝起	B	88	25.0	62.5	0.0	12.5
		後期	B	前期に比べ、評価が下がっている。生活習慣は家庭での生活が基盤となることから、家庭と連携しながら望ましい生活習慣の定着に努める必要がある。今後も毎月の生活習慣調べを継続し、指導の充実を図ってきたい。	児童④寝起	B	88	25.0	62.5	0.0	12.5
		前期	A	昨年度に比べ評価が上がっているが、姿勢については相変わらず肯定率が低い。体育のウォーミングアップ等で、体幹を鍛える運動（メディシンボールの活用）を継続的に取り入れていきたい。	児童⑥体力	A	100	75.0	25.0	0.0	25.0
		後期	B	前期に比べ、児童・保護者・教職員共に肯定率が低下し、目標値も低下している。特に姿勢に対する児童・教職員の肯定率が低い。体育の授業等でも体幹を鍛える運動を充実させ、改善を図りたい。	児童⑥体力	C	75	62.5	12.5	12.5	12.5
学校運営協議会委員の所見			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・体力、基礎運動能力の向上については、個々のめあてを明確にして取り組ませる。基本的な生活習慣の定着については、引き続き家庭と連携しながら指導に当たる。 ・各学級の実情に応じて、授業中に姿勢についての声掛けを行う。また、授業等を通じて、継続して体幹等を鍛え個に応じた体力づくりと基礎的運動能力の向上を図る。 							
保護者・地域との連携	地域に根ざした特色ある学校づくり	前期	A	高い肯定率となった。総合的な学習の時間や社会科、生活科などの学習において、地域を探索したり、地域の方の話を聞いたりしながら地域の良さを学ぶ機会を多く取り入れ、学びを深めることができた。	児童⑬	C	75	38	38	25	0
		後期	A	前期と比べると、児童の評価が100%となった。総合的な学習の時間や社会科、村中万歳、佐礼谷太鼓などの学習において、地域の方に御協力をいただいたり、御指導していただいたりすることで、学びを深めることができた。児童もそれを感じ取っているのだと考える。	児童⑬	A	100	100	0	0	0
		前期	A	高い肯定率となった。野菜作り、田植え、どろんこ遊び、奉仕作業、納涼の夕べ等様々な場面で、地域の関係各所と連携し、協力を仰ぎながら活動の充実を図ることができた。今後も関係各所の協力を得ながら、よりよい体験活動や学びを深めていけるよう努めていきたい。	児童						
		後期	A	高い肯定率にはなったが、前期と比べると「大変よい」の評価が下がっている。地域と関わる行事や学習が前期と比べて少なかったことが理由に挙げられるのではないかと考える。今後も、相互に無理のないように関わり合いながら、地域を愛する心や態度を育てていきたい。	児童						
学校運営協議会委員の所見			学校の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育活動に協力してくださる多くの地域の方々との共通理解と協働実践により、地域に根ざした活動や交流を効果的に展開し、佐礼谷小学校の良き伝統を継承していきたい。 ・今年度からコミュニティースクールがスタートした。地域の方の意見を学校運営に反映させる良い機会となっている。今後も地域とともにある学校づくりを目指していく。 							

研修	教職員の資質と指導力の向上	前期	A	肯定率が高く、100%となった。今年度も複式学級における自主的な学びの進め方や効果的な学習の進め方、ICTを利用した効果的な学習等について研修を深めている。10月には「伊予市のくらし活用研究会」が予定されているため、教職員間で共通認識を行い、準備を進めている。	児童 保護者 教職員(17) 地域住民	A	100	50	50	0	0
		後期	A	高い肯定率となった。研究主題に沿って、各学級で研究授業を行い、授業改善に取り組むとともに、情報共有・交換を密に行うことができた。さらに、複式学級における効果的な指導の方法について、教職員間で研修に励んでいきたい。	児童 保護者 教職員(17) 地域住民	A	100	43	57	0	0
		前期	A	大変高い肯定率となっている。地域学校協働活動推進員や学校運営協議会により地域との連携も取りやすくなった。今後も開かれた学校を目指し、教職員同士、保護者と教職員、地域住民と教職員のつながりやコミュニケーションの場を大事にしていきたい。	児童(15) 保護者(18) 教職員(18) 地域住民(8)	A	100	67	33	0	0
		後期	A	高い肯定率となった。しかし、保護者の中には、時間的に教師と話ができていないと感じておられる方もいる。保護者の方が、さらに話しやすい環境や状況を作れるよう尽力していきたい。	児童(15) 保護者(18) 教職員(18) 地域住民(8)	A	100	33	67	0	0
学校運営協議会委員の所見	・ICT等も活用し、授業内容も工夫されている。児童が興味を持って取り組んでいる。 ・児童に目が行き届き、指導もしっかりとされている。一人一人伸び伸びとしていて良い。		学校の対応	・ICTの効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実に努め、児童が社会を生き抜く力を身に付けられるよう指導・支援していく。 ・小規模校の特性を生かした授業改善を行うために、引き続き、指導力や教職員としての資質の向上に努める。							
安全管理・施設管理	安全安心でうるおいのある学校づくり	前期	A	交通安全協会や地域の方々、保護者の皆さんが、日々児童の登校時の見守り活動に参加してくださっている。その御協力のおかげで、児童は見通しの悪い道路を安全に渡り、登校することができている。	児童(7) 保護者(16) 教職員(19) 地域住民(9)	A	100	88	13	0	0
		後期	A	肯定率は高いものの、児童への見守りが不十分と考える教職員もいる。さらに学校内外において、児童が安全に過ごせる環境を確保するため、見守り活動を充実させていきたい。	児童(7) 保護者(16) 教職員(19) 地域住民(9)	A	100	87.5	12.5	0	0
		前期	A	高い肯定率となった。限られた教職員数の中で分担し合いながら、各担当者が、季節を感じさせる掲示や児童の学習の様子が見える掲示等を工夫して、校内の環境整備に努められた。また、保護者や地域の皆様には、学校周辺の環境整備に加わっていただき、児童が気持ちよく過ごせる環境を整えることができ感謝している。	児童 保護者(17) 教職員(20) 地域住民(10)	A	100	67	33	0	0
		後期	A	高い肯定率であった。児童が落ち着いて学習できる環境の整備に今後も心掛けていきたい。また、児童の学習の様子や内容等が伝わりやすい校内掲示に今後も力を入れていきたい。学校周辺の環境整備に関しては、地域の皆様の御協力をいただき感謝している。	児童 保護者(17) 教職員(20) 地域住民(10)	A	100	33	67	0	0
学校運営協議会委員の所見	・交通量は少ないが全く安心、安全という訳ではない。日頃から子供たちへの安全指導は継続していく必要がある。 ・登校時の見守りで地域の方にお世話になっている。引き続き協力を願うとともに、参加できる方を増やしていきたい。		学校の対応	・住民自治されだにや交通安全協会、関係諸機関との連携に努め、児童・保護者・地域住民が安心して過ごせる学校環境づくりに努めていく。 ・児童数の減少、家庭数の減少に伴うマンパワー不足が生じているが、教育後援会の協力を得ながら、可能な範囲で校内外の環境整備を図っていく。							
業務改善	働き方改革と業務の効率化による心身の健康保持	前期	B	教職員の人数が少ないため、互いに声を掛け合いながら校務に当たっていききたい。	教職員21	B	80	20	60	20	0
		後期	A	改善傾向にある。引き続き、風通しの良い職場づくりに努めたい。	教職員21	A	100	17	83	0	0
		前期	A	今年度から地域学校協働活動推進員に入っただき、地域との連携がスムーズになった。	教職員22	A	100	33	67	0	0
		後期	A	今年度は研究会があり外部講師による講演会を1回少なくした。御理解いただいた保護者や地域の方に感謝したい。	教職員22	A	100	33	67	0	0
		前期	A	年度当初などは超過時間が多い職員もいたが、昨年度より改善傾向にある。	教職員23	A	100	60	40	0	0
		後期	A	高い肯定率となった。今後も勤務時間のみに捉われず、働き甲斐を考慮した業務改善に努めたい。	教職員23	A	100	67	33	0	0
		前期	A	100時間越えの過度な残業はないが、月45時間以内を目標に、今後も効率化を図りたい。	教職員24	A	100	60	40	0	0
		後期	A	前期に引き続き、過度な残業の実態はないが、校務のバランスを考え、効率化を図りたい。	教職員24	A	100	100	0	0	0
学校運営協議会委員の所見	・教職員の人数が少なく大変だと思うが、家に持ち帰る業務もあるのではないかと。 ・一人一人の業務が多く大変だと思うが、今後も職員一丸となって効率化を図り健全な職場づくりに努めてほしい。 ・入学式で教職員の紹介をしてほしい。		学校の対応	・校務は多岐に渡るが、互いが補い合いながら取り組んでいく。 ・勤務時間のみに捉われることなく、働き甲斐や使命感を感じることができる職場づくりを目指す。							

御意見等

(児童)
・国語が楽しかった。・みんなとプールが楽しかった。・修学旅行がとても楽しかった。・自然の家で友達と協力できたことが良かった。
・勉強が遅れていないか少し心配です。
・たいいくのべんきょうがたのしい。ひるやすみに、みんなでおにごっこをするのがたのしい。・運動会で同点優勝ができた。
・自然の家や、遠足、昼休みに遊んだことが楽しかった。・全校お楽しみ会で、みんなでおやつをつくったのが楽しかった。
・ぜんこうおたのしみかいで、チョコバナナをつくったのがたのしかった。・運動会の障害物競走で1位になれてうれしかった。

(保護者)
・普段から地域と一体になり、様々な工夫を重ねて、子どもたちの健全育成に取り組んで頂きありがたく思います。
・帰宅後子どもと話していて気になったことや質問がある時等に、学校勤務時間外で連絡が繋がらないことが増えました。以前より気軽に相談できなくなったと感じます。

(地域)
・小規模校ならではの細やかな目配り、配慮がなされており、教職員と放課後学童クラブ支援員との情報共有、対応ができていることは素晴らしいと思います。
・少ない職員数にも関わらず、学校を綺麗で楽しい環境にされており、素晴らしいと思います。
・いつもお世話になっております。人数が少ない事で、競争力を着けると言う観点から、少し不安があります。
・持久走大会等、中山小学校と合同開催することに賛成です。他校の同学年の友だちと触れ合ったり、競い合ったりする時間をこれからも十分に取って欲しい。
・ふるさとまつりに向けて先生方、大変だと思います。体調には十分に気を付けてふるさとまつり成功させてください。
・人権・同和教育参観日の印象では伸び伸びと育っている児童たちを見た感がありとても安心しました。
・児童は明るくて仲が良く大変良いと思います。先生方の指導も適切で良いからだと思えます。
・皆が学年を越えて仲が良いのがほほえましいです。